

小学部 第4学年○組 算数科 学習指導案

日時 ○○月○○日(○) ○校時
 場所 小学部4-○教室
 指導者 ○○ ○○

1 題材名 みつけようⅡ

2 題材の目標

- (1) 視覚や触覚を活用し、ボール等の具体物の有無を捉える。 **知**小1段階Aア
 (2) ボールに気付いたら、手を伸ばして触れたり押したりする。 **思**小1段階Aイ
 (3) 登場するボール等に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。 **学**小1段階Aウ

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ボールの「ある」「ない」に気付いている。	ボールに気付いて手で押したり、ボールが無くなったなら止めたりする。	自分でボールを何度も転がして、ピンを倒そうとする。

4 児童と題材

(1) 児童について

本児童は挙手や発声、表情などで意思表示ができ、身近な教師の働き掛けには応えようとする姿が見られる。自分で上肢を動かすことができるが、手の平に過敏性があり、ボール等の物を扱う際には払うような動きをする。前期の学習では絵本「かずをかぞえよう」を活用して、挿し絵に注目したり、目の前で隠された物（発泡スチレンの数字）を探したりする学習を行った。教師の読み聞かせを通して、絵本に出てくる物の数唱を聞いたり、挿し絵の車や昆虫などに注目したりすることができるようになってきている。

(2) 題材について

本題材は「ピン倒しボール」というゲームを通して、ボールの「ある」「ない」に気付いて表現することをねらった学習である。「ピン倒しボール」は体育の授業でも取り上げられており、児童がボールを押し出してスロープを転がし、ピンを倒すというゲームであるが、自分からボールを転がそうと手を動かすなど、本児童の好きな活動である。

興味関心をもちながら学習活動に取り組み、その中で転がすボールの「ある」「ない」に気付いて、「転がす」「やめる」などの行動で表現することができるのではないかと、また、ゲームが終わった後の片付けでも、使ったボールを箱に片付ける際に「ある」「ない」に気付いて、「入れる」「やめる」などの行動で表現できるのではないかと考える。このように、物の有無に気付くだけでなく、「気付いて表現する」姿を育みたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

- ・ボールに触れて転がす、箱にボールを入れるなど、自分の体を使って活動していく中で視覚や聴覚、触覚など様々な感覚に働き掛けるようにする。
- ・児童が達成感を味わいながら学習できるように、倒しやすい素材のピンやボールを使ったり、ピンが見えやすいように床や壁面の色を調整したりする。
- ・数詞に親しめるよう、ピンが倒れたりボールを片付けたりする際には教師が物の提示と併せて数を唱える。

5 指導計画（総時数10 時間）

小題材名・学習内容	時数	小題材の目標
1 ピンたおしをしよう ～ボールをみてころがそう～	5 (本時3/5)	・スロープ上にボールがあることに気付く。 知 ・ボールを転がそうと手を伸ばしたり押し出した りする。 思
2 ピンたおしをしよう ～ボールをぜんぶころが う、かたづけよう～	5	・スロープ上や後片付けの際にボールが「ある」 「ない」に気付く。 知 ・ボールがあるときに手を伸ばしたり、ないとき に手を伸ばす動作をやめたりする。 思

6 本時の計画（総時数10 時中の3時）

(1) 本時の目標

- ・スロープ上にあるボールに気付いて手で押ししたり、無くなったら止めたりする。

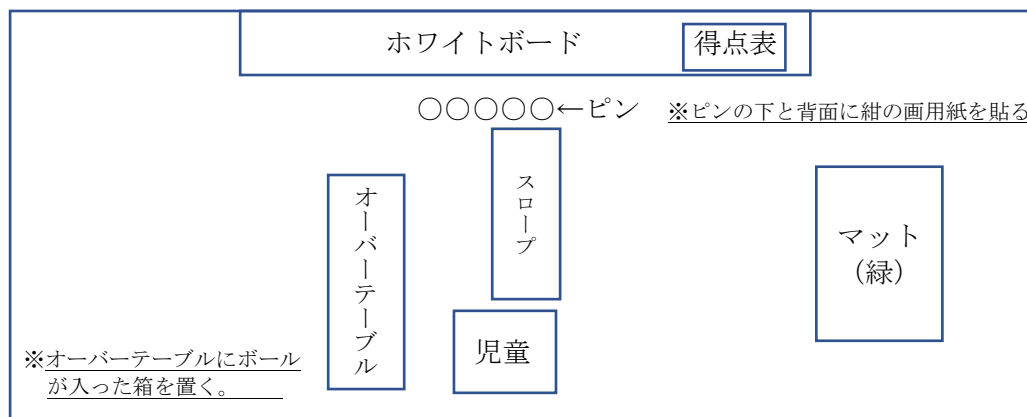
思小1段階A

イ

(2) 学習過程

時間	学習活動	指導上の留意点 ※MS ゴシック：自立活動シートより	準備物
9:55 (2)	1 はじまりの歌を聞く。	・学習の始まりを意識し、数への関心を高められるように「1. 2. 3」などと数唱しながら歌う。	
9:57 (13)	2 学習の準備をする。	・緊張を緩め、学習に向かう気持ちが高められるように、座位保持椅子へ移乗して学習する前にマットの上で足首や腰周辺を緩やかに動かす。 【身】(1)	マット
10:10 (2)	3 本時のめあてを確認する。 【めあて】(自分で) ボールをおしてピンをたおそう	・今日のめあてが分かるように、教師が実際にボールを転がしてみせる。 ・ピンを倒したことが分かりやすいように、予めピンの中に鈴を入れておく。	ボール箱
10:12 (23)	4 ピン倒しボールをする。 ①ボールを手で押して転がす。 ②倒れたピンを教師と一緒に数える。 ※①と②を数回繰り返す。 ③使ったボールを箱に入れて片付ける。	・ボールがあることに気付けるように、目の前にボールを提示してからゆっくり動かしてスロープ上に置く。 ・ピンが見えやすいように、床や壁面に紺の色画用紙を貼っておく。 【環】(1) ・「またやりたい」との気持ちがもてるように、ピンを全部倒したら大きな動作で称賛し、得点表にスマイルマークを貼る。 ・自力でボールを箱に入れられるように、手で押して入れられるような形状の箱を用意する。 ・手を前方に伸ばして触れたり引き寄せたりするよう、箱を机上の前方の手の届きやすい位置(机の端から中央付近)に置く。 【身】(1)	ボール箱 (5個) ピン 鈴 スロープ 得点表
10:35 (5)	4 振り返りをする。 【ふりかえり】(自分で) ボールをおしてピンをたおしたかな?	・達成感が得られるように、得点表のスマイルマークを見たり、ボールを押すときに良かった点を伝えたりして称賛する。	得点表
10:40			

(3) 配置図



(4) 評価の観点

<児童>

○評価 (概ね満足できる)	◎評価 (十分満足できる)
<ul style="list-style-type: none"> 教師の言葉掛けや目の前へのボールの提示でボールに気付き、手を伸ばして転がしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分からボールに手を伸ばして転がしたり無くなったら止めたりしている。

<教師>

- ボールの「ある」「ない」に気付いて手の動きを表出できるような手だてや環境づくり，授業展開ができたか。